

## 令和6年度 石川県水産振興協議会 結果概要

### (1) 能登半島地震の被災状況と復興方針について

- ・事務局より資料に基づき説明した。
  - (出席委員からの主な質疑・意見)
  - ・港は200m以上に渡り沈下するなど被害があったが、仮復旧工事が進んでおり、来年度からエプロンの本工事も始まると聞いている。農道が使えなくなっていたり、市内では沈下しているところもあるが、少しずつ復旧が進んでいると感じている。
  - ・港は何とか荷揚げができています。沈没や転覆した船が5隻あったが、代替りの船を入手し2隻が操業を始めている。
  - ・水揚げがようやく再開し、ノドグロやウスメバルも値段がしてきて、皆さんに喜んでもらっている。
  - ・地震後、海の中の魚に変化はなかったのか。
  - ・泥が沿岸の海底に数十センチつもり、アワビ、サザエ、モズク漁などは難しいと思っている。
- ⇒事務局：今聞いている範囲では、陸上に比べれば漁場は大きな変化はないが、地域によってはスポット的には変わっているところもあり、調査が必要と考えている。陸地から機械を使って、全て土砂を撤去することは難しいと考えており、冬を越えてからの対応策を考えている。
- ・漁礁を調査するために県外から調査員が来ていた。どのような調査結果だったか教えてほしい。
- ⇒事務局：県で入れたものについて調査が完了したところ。現段階で概ね積み上げたものが崩れたり流されたりしていたということは聞いていない。
- ・輪島産の魚がずっとなかったため、アカラバチメやカレイ類の値段が高止まりしている。
  - ・東京や海外のレストランのシェフから海藻が欲しいといった連絡をいただき出荷している。また、藻場保全のためにウニ駆除を行っている。ウニを駆除すると、海藻やサザエなどが復活してきている様子を実感している。地震で岩肌があらわになったところもあるが、そういったところを体験で見てもらったり、一般にあまり食べられていない海藻が生えていることを世界的なシェフとかは愛されることもあるので、そういったものを組み合わせて紹介・PRするのが賑わい創出に良いかもしれない。

### (2) 水産総合センター研究概要について

・事務局より、資料に基づき説明した。

(出席委員からの主な質疑・意見)

・沖で変化が感じられたのは、アジよりもサバが増えたこと。またアカイカが少ない。

・アオリイカが少ないし、カタクチイワシもない。ただ、2～3年前から海が変わってきていると感じているので、地震の影響ではないかもしれない。

・ここ数年の変化という意味では、アイゴが増えてきていると海女が言っている。

・海底の変化はあまり無いようで安心した。小木の底びき網船の出漁回数が少なく、ズワイガニもあまりとれていないようで心配しているが、どうなのか。

⇒事務局：富山湾では海底地すべりが発生したと聞いているが、小木の様子は詳しくは分かっていない。

・潮流観測ブイが鰻目沖にはない。観測ブイを鰻目沖に設置できないか。

⇒事務局：検討する。

### (3) その他

・カキ貝の状況はどうか。

⇒事務局：2～3人の生産者へ聞いたところ、比較的よく育っているとおっしゃる方もいる。ただ、殻を剥く作業に従事される方が避難されているため、出荷能力が下がっているとも聞いている。

・京都でイタボカキの殻を人形のおしろいに加工していると聞いている。殻を風化させるのに長期間必要だが在庫が減ってきているとのこと。例えば今回の地震関連で死んだカキの殻を拾って集めることを海女さんしてもらおうというのはどうか。

⇒事務局：県内で養殖しているのはマガキ。天然で以前はロープや網にカキが良くついたが、最近は付着する量が減ったという印象。

・猪が多く山に入ることが怖く山が荒れており、海に栄養が届いていないのではないかと。

・海業について話があったが、どうやって漁村の維持が図られるのか聞きたい。また、道路の管理が県と町で入れ替わった話も聞いている。漁協や漁民が安心できるように道路や岸壁がどのように直されていくのか聞きたい。

⇒事務局：港を使ってどうやって発展していくのかというのが海業。まずはこの地域をどうされるのかを地元で議論し考えていただく必要があると思う。

⇒事務局：新たに付けた道路を県が管理し、従来の道路を町へ移管するという管理者の入れ替えがあったのだと思う。小木港は港湾管理者の県が直し、メインのところは国の直轄代行、道路は町と、皆で直していくことになる。

- ・事務局より、ズワイガニの初セリ結果及びオオズワイガニの適正表示について資料に基づき説明した。

(出席委員からの主な質疑・意見)

- ・オオズワイガニは石川県へも流通で入ってきているのか。

⇒事務局：入ってきている。種類が異なり質が違うことや、資源管理にされていない魚種である点など、我々が取り組んでいるズワイガニの資源管理とは相いれないものがある。きちんと情報を伝えたくて消費者が比べなければフェアではないということで、国や日本海の各県と協力し通知を出したところ。